NIE実践報告

1．タイトル　投書してみよう

2．学校名

滋賀県立守山高等学校

3．実践者名（代表者名）

戸田明美

4．学年

高校２年生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　現代文　（４５名）

6．単元（本時の学習課題）名

実用文の表現　～自分の意見を述べる～

7．目標(狙い)

「自分の意見を５００字から６００字程度で組み立てる」ことをねらいとして、新聞の投書を分析し、若者がとりあげるテーマの傾向やわかりやすい文章構成を考えた後、夏季休暇中に各自が実際に投書する。

8．評価の視点

・自分が選んだ投書について、内容を読み取り、テーマや構成上の工夫を分析できたか。
・自分の意見を決められた字数でわかりやすく述べることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

実用文の表現　１時間（家庭学習課題として＋１時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１．投書を切りぬく
（課題）新聞の投書欄を読み、その中で特に印象に残った投書を一つだけ選び、以下の項目についてまとめておこう。選んだ投書は指定箇所にはっておこう。
（１）選んだ投書について整理する。①投書を書いたのはどのような人物か。②投書にはどのような意見が述べられているか。③その意見はどのような体験や事実に基づいて述べられているか。
（２）選んだ投書に対する意見や感想を簡潔にまとめる。
２．投書を書く
（課題）日常の体験に基づいていることを条件に、「最近気がついたこと」「最近気になること」のどちらかで実際に投書を書いてみよう。（家で清書して実際に新聞社へ投書する。）
（準備）次の各項目を整理しておこう。①「最近気がついたこと」「最近気になること」を箇条書きに書き出してみよう。②書き出したことの中から一つ選び、その時の体験や出来事を簡潔にまとめよう。③その体験や出来事を通してどんな意見を持ったか、まとめよう。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

初めて投書を読む生徒も多く、投書欄を探すのに手間取った生徒もいた。高齢者の投書は多く、同年代の投書は少ないことに気づき、自分たちの意見を発信することの必要性を感じたようだった。

12．成果と課題

高校の現代文の教育課程の中では表現活動に主体を置いた時間を特別に設けることは難しく、表現の指導としては、読解に主体を置いた普段の授業の中で文章をまとめる練習や指導を取り入れ、別に、長期休暇中の課題として、まとまった文章表現をさせることにしている。今回も１時間の授業で、投書の分析と下書きメモまでを作成したかったが、時間不足の生徒も多く実際に投書できるところまでには至らなかった。夏休みの課題でなく学期中の課題とした方が新聞に掲載された投書を互いに読めるなど、事後の指導が充実したと思われる。